

町長一般経過報告

第4回広野町議会定例会

“日本一元気な町づくり” ふる里復興・創生「躍進の年」 —いのちを守り、人を活かし・未来をつくる町—

令和3年度第4回広野町議会定例会が12月15日から16日までの会期で開催されました。一般質問を経て議案審議がなされ、すべての議案が原案どおり可決されました。

会期初日には、遠藤町長が第3回定例会（9月開催）以降の町政経過報告を行いました。町民のみなさんにお伝えしたいことがたくさん盛り込まれていますので、主な内容の抜粋を掲載します。



遠藤町長

新型コロナウイルス 感染症対策本部

9月10日、町内において新型コロナウイルス感染症陽性患者37例目が確認されて以降、陽性患者は確認されていません。

令和3年8月20日にピークを迎えた新型コロナウイルス感染症第5波は徐々に減少し、全国で発令された緊急事態措置及び福島県に発令されたまん延防止等重点措置が令和3年9月30日を以て終了しました。

10月27日、新型コロナウイルス感染症の影響による業務用米の需要減少や人口減少及び食生活の多様化による米消費減少により、令和3年産米の価格が大幅に下落したことから、農業者の生産意欲と経営安定等を支援するため、広野町米価下落影響緩和緊急対策補助制度を開始しました。補助金の申請受付は11月1日から開始しており、12月1日現在の申請件数は26件となります。

11月19日、国における新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針及び福島県新型コロナウイルス感染症防止対策が改定され、新型コロナウイルス感染症の第6波に備え、医療提供体制の強化、ワクチン接種の促進、治療薬の確保等により重症化する患者数が抑制され、病院ひっ迫がこれまでより生じにくくなり、感染拡大が生じても国民の命と健康を損なう事態を回避することが可能となり、感染リスクを下げながら経済社会活動の継続を可能とする新たな日常を実現するとし、ワクチン検査パッケージの導入などを進めています。

新型コロナウイルス感染症ワクチン接種3回目につきましては、医療従事者を令和3年12月から個別接種、それ以外の高齢者等の方は令和4年2月から集団接種により実施します。

今後も新型コロナウイルス感染症における国、県の動向、感染状況等を注視し、対策本部会議において適時、適切な対応に取り組みます。

総務課

9月19日、行政区長会議を開催し、新型コロナウイルス感染症対策、令和元年度大雨災害の復旧状況の経過、並びに令和3年度における広野町の重点事業の進捗状況と要望の対応について説明を行いました。行政区長

に向け、選挙管理委員会では、新型コロナウイルス感染症対策として、選挙日当日の密を避けるため、広報車による啓発活動と呼びかけると伴に投票所内の感染防止対策に取り組み、投票率56・96パーセントとなりました。

11月16日告示、21日投開票の日程で、広野町長選挙が執行されましたが、無投票となり3期目を務めることになりました。引き続き、町民の負託にこたえられるよう町民主体の町づくりを目指し、復興・創生を成し遂げ、いかなる困難に対しても、正面から向き合い、全身全霊全力で前進する決意であります。

復興企画課

10月5日、二ツ沼総合公園において、東京大学アイソトープ総合センターとの医薬品開発の連携協力に関する協定に基づき、がん治療や新型コロナウイルス感染症検査薬の研究に活用された2頭のアルパカのお披露目を行いました。2頭の色にちなんで「ミルク」、「ココア」と命名され、名付け親の広野小学校児童会代表委員の児童は、「町の人を癒す存在になつて欲しい」と思いを語りました。



「ミルク」と「ココア」のお披露目

10月20日、西銘恒三郎復興大臣が就任挨拶のため来庁されました。双葉地方の復興への展望に向けて、町の現状を伝え、福島第一原子力発電所の処理水の海洋放出に伴う風評被害対策や国際教育研究拠点の早期具現化、移住定住対策の促進などについて意見交換を行いました。西銘恒三郎復興大臣からは、「何度も足を運び、現場の声を聞きながら進めて行きたい」とのお言葉をいただきました。

10月21日、江島潔前経済産業副大臣が退任のご挨拶のため、来町されました。在任期間中において、広野町の復興・創生に向けてご尽力いただきましたことについて御礼を申し上げ、引き続き、ご支援とご指導いただきますようお願いしました。

11月5日、石井正弘経済産業省副大臣が就任挨拶のため来庁されました。議長・副議長同席のもと、復興には12市町村の連携や協働が重要であることを伝え、ALPS処理水の処分に伴う風評被害や帰還困難区域内の住民帰還に向けての支援、国際教育研究拠点構想の予算化、カーボンニュートラルの実現などについて意見交換を行いました。石井正弘経済産業省副大臣からは、「原子力災害現地対策本部長として浜通り自治体を訪問し、意見・要望を施策に反映していく」とのお言葉をいただきました。

11月12日、東洋システム株式会社 代表取締役 庄司秀樹様より、15万枚のサージカルマスクを寄贈いただきました。寄贈いただきましたサージカルマスクはコロナ禍における災害時の感染症対策として公共施設及び医療機関・福祉施設に配備し、町民の感染症予防に活用して参ります。

11月19日、広野IGCC発電所寺田齊所長、大村洋次副所長が来庁し、総出力54万KWとなる世界最新鋭の高効率石炭ガスカ化複合発電設備が運転を開始した旨、報告がありました。IG

CC技術は、優れた効率で発電すると共にCO₂の排出低減を実現する福島復興電源として、地元経済や雇用創出に大きく貢献するものと期待しています。



「広野IGCC発電所」運転開始に伴う記念品贈呈の様子

11月20日、いわき市において、第24回廃炉・汚染水・処理水福島評議会が開催され、福島第一原子力発電所廃炉に関する進捗、汚染水処理の取り組みについて報告がありました。原子力損害賠償・廃炉等支援機構による「廃炉国際フォーラム」や早稲田大学「ふくしま学（学）会」、復興知を活用した「話し合いの場」から、廃炉・汚染水の処理に関する地域理解が進むことを望みます。

11月24日、新妻秀規復興副大臣が就任挨拶のため来庁されました。議長同席のもと、原発事故避難指示等解除区域における

の皆様からいただいた貴重なご意見を施策に反映し取り組んでいきます。

10月10日、令和3年度から新たに生活環境の美化と保全、地域コミュニティ再生を目的とした行政区単位の町内一斉クリーンアップ作戦を実施しました。町民の皆さまには多数ご参加いただき、町内各地の環境美化に取り組みました。



行政区クリーンアップ作戦の様子

10月23日、JR広野駅及び周辺にて、広野駅環境美化推進協議会をはじめ、広野町婦人会、町内企業、JR東日本、町職員など約70人の参加をいただき、駅構内や駅広場の清掃、除草作業を実施いたしました。

10月19日告示、31日投開票の日程で第48回衆議院議員総選挙が執行されました。投票率向上

医療・介護保険料の全額免除見直しについて、地域の実情を踏まえ、公平性を念頭に賠償で生じた分断を生まない形の見直しを求めました。新型コロナウイルス3回目接種については、地域住民はもとより、廃炉や除染等の事業従事者に至るまで、定められた期間内に接種が完了するように十分なワクチンの配分を求めました。

12月11日、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 櫛葉遠隔技術開発センターにおいて、第6回廃炉創造ロボコンが開催されました。福島第一原子力発電所の廃炉作業を題材に、自らが制作したロボットで様々な課題の解決を目指すロボットコンテストで、全国から12高専、13チームが参加し、熱戦を繰り上げました。

健康福祉課

9月17日、下浅見川在住の鯨岡キミ子様が目出度く満100歳を迎えられ、社会福祉協議会と老人クラブ連合会の合同により、ご自宅において賀寿贈呈式を挙行了しました。

10月2日、保健センターにおいて、新型コロナウイルス感染